

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(3号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kanistrue&lievosv0d=2276400071-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 モア設備設計事務所
所在地	静岡市葵区昭府1丁目8番35号ツキチ商事ビル4F
訪問調査日	平成25年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2001年開設の地域では老舗のグループホーム。日当たりの良い丘の斜面、広い敷地の中に各ユニットが独立した平屋の建物になっている。</p> <p>隣接して同法人経営の老人保健施設があり、医療面・運営面で協力関係にある。施設の夏祭りには数年前より地域の子供会、老人会が参加、100人を超す人が訪れる。運営推進会議にも地域の老人会の方が参加し地域との関係も深まっている。</p> <p>リビングルームはとても明るい。老若のバランスがとれた職員の年齢構成。笑顔の丁寧な対応で落ち着いた明るい雰囲気が漂う。食材は3ユニット共通のものが業者から提供されるが、時には入居者の好みなどに合わせ、各ユニットごとにメニューを変更し調理している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの介護で笑顔がいっぱいの家」を常に念頭に置き、入居者様の笑顔が引き出せるように職員も笑顔で接しています。	理念は掲示だけでなく、実際にも笑顔で入居者に接することが実践できていたので、意識されているが、口からスラスラ出てくるほどにはなっていない。	声に出して理念を確認する機会を設けるなど、より浸透する方策が講じられることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りは地域住民や子供会を招待して開催することが恒例となりつつあります。地元の中学生の職業体験を受け入れています。また近隣の住民がボランティアで畑を手入れしてくれ、職員や入居者様も一緒にやっています。	敷地内の畑の世話を地域の方がしてくれたり、同一法人経営のケアセンターとの夏祭りに地域の子どもや老人が多数参加している他、中学生のボランティア体験や地区のそば祭りに入居者も参加するなど、付き合いは深まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民にも参加して頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、入居者様の様子を報告しています。地域防災について意見があり、改善できるところは改善していくように努めている。	2ヶ月に1度開催され、地域の自治会だけでなく老人会の方の参加もある。ノロ予防に関する知識や施設側のイベント情報の提供もされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括の職員が必ず出席してください。地域とかかわりを持てるようなアドバイスを頂き実践できるものはしています。	地域包括とは運営推進会議など連絡連携を取る基盤が築かれているが、市担当者との関係はまだ浅い。	市の担当課の職員に運営推進会議に参加してもらうなど、関係を深めていくことを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないといけないと言う事を勉強会等で職員に周知理解しています。職員が2人になったら玄関も施錠はしません。	玄関は自動ドアで日中は自由に入出入りできる。建物のガラス窓の開口部から敷地内が見渡せ、他のユニットの利用者も見守りが行き届く環境になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行って職員に啓発しています。特に言葉使いには気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んでいますが、新入職の職員もいますので再度復讐をしていきます。今現在は制度の利用を必要としている入居者様は居りません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際はまず電話で説明をし、来設時に再度説明をし納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必ず利用者様とご家族様に意向の確認をして、ケアプランに取り入れるようにしています。また言いづらいことも取りこぼしの無いように。意見箱を設置してあります。	遠方の方を除き、家族への請求書は施設での手渡しとなっているため、その機会を通じての直接対話が大きな役割を果たしている。また運営推進会議への参加もあり、意見を反映させる体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では上司も出席していただき。職員の意見や提案を聞いていただいています。	月1回第3金曜日に職員会議を開催し、入居者の状況を共有、また職員から出た意見提案などは活かすようにしている。欠席者には会議録などを回して情報の共有をはかっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議等で出た意見で改善できるところは改善してもらっています。また、資格を取ることでも給与にも反映されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員のレベルアップを目指して勉強会を行っています。また法人でも年2回の講習があります。外部研修にも積極的に進めるよう、休みの調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他館の館長が職員会議に参加し、他館の様子を教えてください。必要に応じて、お手伝いに行き交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回は、必ず2人で訪問し、ご本人、ご家族様の要望や不安等を聞き出しています。入居後も職員が、他の入居者様とのコミュニケーションを取れるように声掛けを頻繁にし不安の解消に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が困っていることを言ってもらえるような雰囲気づくりや、笑顔、信頼関係が築けるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活スタイルを尊重しながら、入居と言う支援の中、良好なコミュニケーションを取りながら必要としている支援を聞き出し見極めていくように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	やってもらう側、やる側ではなく、生活を共にする者として、できることは一緒にやっけていき、家庭的な雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回入居者様の生活の情報を報告したり、来設時にはその都度生活の様子を伝えています。また外出に誘ってもらい、気分転換したりして家族と共に支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に手紙を書いたり、外出したり、地域の行事等に積極的に参加しています。	馴染みの方などからの手紙があった場合は返事を出すよう勧めサポートしている。家族の協力も得て、馴染みの美容院、お墓参りなど関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しめるようなレクリエーションや、散歩、行事等をして、3ユニットすべての人がかかわりあえるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の施設に入所された方などは、近くまで行けば、会いに行ったり、声をかけたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメントでご本人、ご家族様から意向を、日常会話の中から聞き出し、確認しています。聴覚が不自由な方には「ジェスチャーを交えコミュニケーションを図り以降の確認をしています。	希望や意向をはっきり示す方の場合は極力それに応えるようにしている。意志を示すのが難しい方は、家族からの情報や日頃の観察結果を参考に意向を推測して応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで聞き取れないところは日常の会話の中から聞き出すようにしています。聞き出した事は職員が周知できるように記録に残します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や、気づいたこと、変化のあったこと、健康状態等は、記録に残し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	当日いる職員と御本人、ご家族様と話し合いの場を持ち、意見が反映できるようにしています。ご家族様が当日これない場合は確認と訪核をしています。	家族がより正確に把握できるように、入居者の現在の様子や状態について伝え、その上でこうして行きたいとケアプランについて説明、家族・職員がひとつになって作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきがあれば、職員間で話し合い、内容を記録し、情報を共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様一人一人に対して、その時出てくるニーズにその都度その都度対応していますが、今後はもっと十分に対応ができるように計画しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベント等に、自治会にも協力していただき参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診があります、往診でない入居者様は、ご家族様がかかりつけの病院へ受診しています。緊急時にはかかりつけの病院へ受診しています。	月1回協力医の往診があるが、全体で3分の1強の入居者が家族の協力もえて、以前からのかかりつけ医に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月併設の施設から看護師の回診があり、入居者様の体調や様子を伝え適切な受診が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には病院を訪問し経過を把握し、病院関係者とも関係づくりをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と反試合十分な理解をして頂いたうえで、ホールでの対応のできる範囲を伝え、系列の老健のあることを伝え、チームで支援しています。	看護師がいないので、入居時に家族にはできることを話し、重度化した場合は隣接する同一法人の老人保健施設でのケアへの移行の態勢などがあることを説明し、看取りは基本行っていない。	看取りの希望があった場合どのような態勢で臨むか、検討していくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い職員一人一人が実践できるようにしています。特に急変のありそうな片の対応方法をわかりやすく表示してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を行い避難方法を確認し、職員全員が訓練に参加しています。地域防災の際は安否確認をして頂いています。	避難のために敷地内の段差もスロープにして解消した。隣接する老人保健施設と連携した避難訓練を年2回実施、地域の防災訓練にも参加し、各ユニットまで地域の方が安否確認にくる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格を尊重しプライバシーを守り、常に言葉使い相手の気持ちを考え傷つける事の無いように気をつけています。	意志のはっきりしている方には希望の呼び方で接するようにし、丁寧な言葉づかいを心がけている。施錠されている居室の夜間の巡回時には、解錠することを事前に入居者・家族の了解を得て入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望、思いをいつでも言ってもらえるような環境づくりをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここの意見を優先し、その時の状態にも応じて一人一人のペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が決めるのではなく入居者様の好み、その時の気分、希望を受け止め、アドバイスしたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様も交わりながら、食べたいものを聞いたり、できることをして頂き、準備から片付けまで楽しくやっています。	業者提供の食材だけでなく、畑でとれた大根やエンドウ、自家製手製の切り干し大根なども使用している。夏祭り、イベント時ならではのメニューもある。準備、片付けのできる入居者には役割を固定しないために輪番制で食器拭きを担当してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリーは計算されています。体重の変化にも注意しながら、栄養の確保に努めています。脱水予防のためにも食事の時、10時15時に”お茶”をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし介助し清潔を保っています。毎食が難しい人は、入床前は必ず口腔ケアを職員と一緒にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し時間ごとにトイレへの声かけ、誘導をして失敗を減らすようにしています。	トイレで排泄できるよう、日中は個々の利用者に合わせてさりげなく声掛けや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活を(水分補給、運動、暴飲暴食をしない)することで、体質のち変化が出てきています。個々に応じた予防はしていますが改善までには時間がかかるのが現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴をしています。日中に入ることのできる、入居者様個々の希望を受け入れることができるので、希望に沿って支援しています。	火、木、土の週3日午後2時から4時前までの時間帯で入浴を実施している。それ以外でも希望があれば入浴できる。入浴があまり好きでない入居者には清拭で対応している。また職員手作りのみかんの入浴剤で少しでも入浴を楽しんでもらおうと工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせてエアコンを使用し生活しやすいよう温度調整をしています。冬場はぐっすり眠れるようにあんかや湯たんぽを使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時には薬に書いてある名前、日付を再確認し、入所者様の名前を呼び、誤薬の無いように服用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的にできるお手伝いをして頂いています。役割があることで張り合いも出て充実した日々が過ごせています。またレクリエーションも参加して気分転換をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行事を考え、ドライブ等に出かけています。また地区の行事の参加したりしています。毎朝天気の良い日は散歩に行き、戸外へ出かけています。ご家族様と気分転換に外出する入居者様もいます。	天候が良い日は体操の後、敷地や近所を散歩している。買い物は隣接の保健施設の売店やショッピングセンターにも月一回職員が付き添い車で出かけている。季節には太田川の河原での花見や小国神社への紅葉狩りや海岸にケアセンターのマイクロバスなどを使って出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを預かっていますので、買い物と一緒に行って、自分で支払いができる方は自分でして頂きます。手元に自分用のおこずかいを所持している人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があればその都度ご家族様に電話をしています。手紙が届いたときは一緒に読み、返事を書く支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は乾燥に気をつけ加湿器等を利用して湿度の確保をしています。トイレ等の表示は表現を変えたり、表示を見やすい位置にしています。季節を感じる行事をし、写真を撮ったものを掲示しています。	キッチンと一体となったリビングは大きな窓が3面にあり、とても明るい。入居者の作品や季節の飾り物なども、派手過ぎない程度に飾られている。外壁の色も壁紙も各ユニットごとに異なり、特に壁紙は明るくやさしい色使いのものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見ながら気の合う入居者様同士で会話をしたり、テーブルで会話を楽しんだり、入居者様後思い思いの場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台や品々を持ちいれたり、テレビや写真、冷蔵庫を置いたりして、ご自分の使い勝手の良い、心地の良い居室にしています。	それぞれの居室は、自分の作品やご家族の写真などさまざまで、仏壇のある部屋もあり、入居者各々の趣味や暮らしぶりが感じられる。掃除も行き届いていてとても清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内での手すりを使って立ち上がりの訓練をしたり廊下を歩行時に使っています。ホールからは全居室の入り口が見渡せるようになっていて、常に安全の確認をしています。		